

8 肥料検査の概要

(1) 検 査

ア 月別立入検査成績

令和 年.月	立 入 事 業 場 数	収 去 件 数					備 考 (立入事業場の所在地)
		生産事業場			販売 事業場	計	
		知事 登録	指定 配合	特殊 肥料			
7. 5	2	1		1		2	美里町、日高市
7. 6	3	2		3		5	神川町、さいたま市
7. 9	1			1		1	入間市
7. 10	3	1		2		3	戸田市、さいたま市、三芳町
7. 11	2	4				4	本庄市、横瀬町
計	11	8		7		15	

(注) () 内は立入検査を実施した事業場の数。特記以外は1。

イ 普通肥料の検査

(ア)検査標品点数及び対象数量

	生産事業場		販売 事業場	備 考
	知事登録肥料	指定混合肥料		
検査標品点数	7	0	0	
不合格点数	0	0	0	
検査対象数量(t)	26	0	0	
保証票検査等に 係る違反点数	0	0	0	

(イ) 分析検査成績

a 種類別検査成績

肥 料 の 種 類	検査標品点数	不合格点数	不合格率(%)
菌体りん酸肥料	1	0	0
米ぬか油かす及びその粉末	1	0	0
乾燥菌体肥料	3	0	0
消石灰	2	0	0
生石灰	1	0	0
計	8	0	0

b 成分別検査成績

検 査 成 分	検査標品点数	不合格点数	不合格率(%)
窒素全量	5	0	0
りん酸全量	5	0	0
加里全量	5	0	0
石灰全量	5	0	0
アルカリ分	3	0	0
カドミウム	5	0	0
ひ素	1	0	0
	29	0	0

(ウ) 重量検査

肥 料 の 種 類	検査点数 (銘柄数)	不合格点数	不合格率 (%)
消石灰	20 (2)	0	0
計	20 (2)	0	0

ウ 特殊肥料の検査

(ア) 検査標品点数及び対象数量

	生産事業場	備 考
検査標品点数	6	
不合格点数	0	
検査対象数量(t)	897	

(イ) 分析検査成績

a 種類別検査成績

指 定 名	検査標品点数	不合格点数
混合特殊肥料	1	0
堆肥	6	0
計	7	0

b 成分分析調査成績

分析成分	分析成分点数	不合格点数
水分	7	0
窒素全量	7	0
りん酸全量	7	0
加里全量	7	0
石灰全量	7	0
亜鉛全量	7	0
銅全量	7	0
炭素窒素比	7	0
計	56	0

(ウ) 重量検査

肥 料 の 種 類	検査点数 (銘柄数)	不合格点数	不合格率 (%)
堆肥	20 (2)	0	0
計	20 (2)	0	0

エ 検査結果の公表（県報掲載状況）

公表年月日	検査点数（銘柄数）			不合格点数			保証票 検査等 に係る 違反数
	普通 肥料	指定 混合	特殊 肥料	普通 肥料	指定 混合	特殊 肥料	
R7. 12. 9	3	0	4	0	0	0	0
R8. 3. 27	4	0	2	0	0	0	0
計	7	0	6	0	0	0	0

オ 肥料の品質の確保等に関する法律違反の処分状況

（ア） 告発 該当なし

（イ） 注意等行政指導

- a 当所検査に係るもの 該当なし
- b 他の検査機関から依頼されたもの 該当なし
- c 他の検査機関へ依頼したもの 該当なし

（２）登録及び届出

今年度の知事登録普通肥料の申請及び届出件数は 26 件（前年度比＋7）であった。新規登録件数は 2 件（前年度比－1）であり、肥料登録有効期間延長（更新）申請が 6 件（前年度比－4）であった。書替申請 0 件（前年度比±0）であり、再交付申請 0 件（前年度比±0）、変更等届出が 16 件（前年度比＋13）、登録失効届出は 0 件（前年度比－3）であった。

指定混合肥料の各届出は 2 件（前年度比－4）であった。

特殊肥料関係の各届出は計 20 件（前年度比－11）であった。

肥料販売関係の届出は、166 件（新 40・変更 106・廃止 19・その他 1）であった。

令和 8 年 3 月末現在、生産業者数は知事登録普通肥料 35 業者・指定混合肥料 15 業者・特殊肥料 360 業者であり、のべ 410 業者となっている。また、肥料の有効銘柄数は、知事登録普通肥料 75 銘柄・指定混合肥料 29 銘柄・特殊肥料 473 銘柄、合計 577 銘柄となっている。

ア 肥料の種類別新規登録件数

肥 料 の 種 類	件 数
菌体りん酸肥料	2
計	2

イ 肥料の種類別登録更新件数

肥 料 の 種 類	件 数
肉かす粉末	1
乾燥菌体肥料	4
混合有機質肥料	1
計	6

ウ 肥料の種類別失効件数

肥 料 の 種 類	件 数
	0
計	0

エ 指定混合肥料の新規届出件数

肥 料 の 種 類	件 数
土壌改良資材入り指定混合肥料	1
指定配合肥料	1
計	2

オ 特殊肥料の種類別新規届出件数

肥 料 の 種 類	件 数
堆肥	12
牛ふん	(5)
家きんふん	(3)
豚ふん	(2)
その他	(2)
草木灰	1
計	13

カ 知事登録普通肥料の種類別有効登録件数
(令和 8 年 3 月 31 日現在)

肥 料 の 種 類	有 効 登録数	備 考	
		R 6 年度	R 5 年度
菌体りん酸肥料	3	1	0
魚かす粉末	8	8	8
魚節煮かす	2	2	2
肉かす粉末	1	1	1
なたね油かす及びその粉末	3	3	3
ごま油かす及びその粉末	0	0	0
米ぬか油かす及びその粉末	2	2	2
ひまし油かす及びその粉末	1	1	1
豆腐かす乾燥肥料	1	1	1
加工家きんふん肥料	3	3	3
副産動植物質肥料	1	1	0
副産植物質肥料(旧)	2	2	2
乾燥菌体肥料	12	12	12
副産動物質肥料	0	0	3
混合有機質肥料	12	12	12
混合堆肥複合肥料	1	1	0
食品残さ加工肥料	1	1	1
配合肥料	2	2	2
生石灰	3	3	3
消石灰	13	13	13
炭酸カルシウム肥料	3	3	3
副産石灰肥料	1	1	1
計	75	73	73

キ 指定混合肥料の種類別有効届出数
(令和 8 年 3 月 31 日現在)

肥 料 の 種 類	届出数
指定配合肥料	23
指定化成肥料	0
特殊肥料入り指定混合肥料	0
土壌改良資材入り指定混合肥料	6
計	29

ク 特殊肥料の指定名別有効届出数
(令和 8 年 3 月 31 日現在)

指 定 名	届出数
粗砕石灰石	1
米ぬか	5
くず大豆及びその粉末	1
草木灰	7
骨炭粉末	1
動物の排せつ物	14
動物の排せつ物の燃焼灰	3
堆肥	420
牛ふん	(116)
家きんふん	(5)
家きんふん(鶏)	(44)
豚ふん	(47)
生ごみ	(47)
樹皮	(4)
その他(馬ふん)	(6)
その他(草木質系)	(60)
発泡消火剤製造かす	2
貝殻肥料	5
貝化石粉末	1
カルシウム肥料	7
混合特殊肥料	6
牛ふん、鶏ふん、米ぬか	(4)
鶏ふん、米ぬか	(2)
計	473

ケ 各種申請・届出の処理状況

申 請 ・ 届 出 の 種 類	件 数	備 考
肥料登録申請	2	アのとおり
肥料登録有効期間更新申請	6	イのとおり
肥料登録事項変更届	16	代表者
肥料登録証書替交付申請	0	
肥料登録証再交付申請	0	
肥料登録失効届	0	ウのとおり
指定混合肥料生産業者届	2	土壌改良資材入り指定混合 指定配合肥料
指定混合肥料生産業者届出事項変更届	0	
指定混合肥料生産事業廃止届	0	
特殊肥料生産業者届	13	オのとおり（法人 9、個人 4）
特殊肥料生産業者届出事項変更届	7	代表者 4、住所 1、その他 2
特殊肥料生産事業廃止届	19	堆肥（法人 10、個人 9）
肥料販売業務開始届	40	法人 29、個人 11
肥料販売業務開始届出事項変更届	106	事業所 88、代表者 22、その他 3 ※ 重複して届け出がされている。
肥料販売業務廃止届	14	法人 6、個人 8
その他の届出	2	肥料販売届出受理の証明
計	227	

コ 肥料生産業者及び販売業者数（令和 8 年 3 月 31 日現在）

区 分		業 者 数	有効銘柄数等
生産業者	普通肥料生産業者	35	75
	指定混合肥料生産業者	15	29
	特殊肥料生産業者	360	473
	計	410	577
販売業者	農協系	19	（うち生産を兼ねるもの 0）
	商 系	1,296	（ 〃 381）
	計	1,315	—

(3) 調査事業等

ア 肥料生産量調査

(ア) 目的

埼玉県知事登録及び届出肥料の生産量の実態を把握する。

(イ) 調査方法

埼玉県知事登録のある普通肥料生産業者と埼玉県知事に届出をした指定混合肥料生産業者及び特殊肥料生産業者を対象として、令和7年1月から令和7年12月までの肥料生産量の調査を実施した。

対象とした肥料生産業者数及び肥料の銘柄数は以下のとおり。

業 者 の 種 類	業 者 数	対象となる肥料の銘柄数
知事登録普通肥料生産業者	34	73
知事届出指定混合肥料生産業者	14	24
特殊肥料生産業者	295	399

(ウ) 調査結果の概要

令和7年の知事登録肥料および知事届出の指定混合肥料の生産量は、14,007.1 t（対前年比 100%）で前年とほぼ同程度であった。乾燥菌体肥料（同 91%）は減少したものの、米ぬか油かす及びその粉末（同 119%）の生産が若干伸びた（表 1）。

特殊肥料の生産量は 73,172 t（同 81%）で、その特殊肥料の多くを占める堆肥 72,504.1 t（同 82%）の減少が影響している。

堆肥の種類では、数量の多かった牛ふん堆肥（同 74%）が減少したのは、牛ふん堆肥を生産する酪農家の廃業が影響していると考えられる。

また、家きんふん堆肥（同 68%）も数量が減少しているが、堆肥を生産する養鶏農家の廃業はなく、飼養羽数の減少が推察された。豚ふん堆肥（同 138%）は数量を伸ばしている（表 2）。

表1 埼玉県知事登録及び届出の普通肥料生産量

肥料の種類	生産量(t)			令和7年払出量(t)			調査対象登録肥料 銘柄数	
	令和 7年 (t)	令和 6年 (t)	対前 年比 (%)	国内向 製品 (t)	原料用 (t)	その他 (t)	[生産実績のあった もの]	
菌体りん酸肥料	0.1	7.1	1	0.0	0.1	0.0	1	[1]
魚かす粉末	0.0	5.5	0	0.0	0.0	0.0	8	[]
魚節煮かす	0.0	6.1	0	0.0	0.0	0.0	2	[]
肉かす粉末		0.0					1	[]
食品残さ加工肥料	4.0	5.0	80	2.0	0.0	2.0	1	[1]
豆腐かすの乾燥肥料	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1	[]
なたね油かす及びその粉末	1,077.0	1,008.0	107	673.0	236.0	1036.0	3	[3]
米ぬか油かす及びその粉末	6,671.0	5,607.0	119	2,824.0	3,378.0	33,149.0	2	[2]
ひまし油かす及びその粉末	0.0	58.1	0	0.0	0.0	0.0	1	[]
加工家きんふん肥料		0.0	-				3	[]
副産動植物質肥料	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	3	[]
乾燥菌体肥料	2,747.6	3,020.5	91	217.3	2,530.4	0.0	12	[6]
混合有機質肥料	121.0	388.0	31	93.0	28.0	0.0	12	[3]
混合堆肥複合肥料	133.0	0.0	-	0.0	133.0	0.0	1	[1]
配合肥料		2.4					2	[]
生石灰	40.0	61.0	66	40.0	0.0	0.0	3	[1]
消石灰	2,701.0	2,970.0	91	2,480.0	0.0	221.0	13	[9]
炭酸カルシウム肥料	277.0	538.0	51	277.0	0.0	0.0	3	[1]
副産石灰肥料		282.2					1	[]
指定混合肥料	235.4	44.5	529	198.0	37.4	0.0	24	[6]
(土壌改良資材入り)	(159.0)		-	(159.0)	(0.0)	(0.0)	(6)	([2])
(指定配合肥料)	(76.4)	(44.5)	(172)	(39.0)	(37.4)	(0.0)	(18)	([4])
計	14,007.1	14,003.4	100	6,804.2	6,342.8	34,408.0	97	[34]

注) 1 普通肥料の生産量には、飼料用・工業用等のその他の区分のものは含めていない。

2 生産量と払出量の差は在庫や昨年生産品の出荷である。

3 生産量・払出量は肥料の種類ごとに四捨五入しているので、種類ごとの総和が、計に合わないことがある。

表 2 埼玉県知事届出の特殊肥料生産量

特殊肥料の種類	令和 7 年 (t)	令和 6 年 (t)	対前年比 (%)	調査対象 有効届出数 [生産実績あったもの]
米ぬか	414. 6	504. 6	438	5[4]
くず大豆及びその粉末	3. 2	1. 8	175	1[1]
草木灰	76. 0	98. 0	78	7[2]
骨炭粉末	0. 0	0. 0	－	1[0]
動物の排せつ物	137. 0	1, 209. 2	11	12[6]
(牛ふん)	(2. 0)	(2. 0)	(100)	(1[1])
(豚ふん)	(0. 0)	(0. 0)	(－)	(1[0])
(家きんふん)	(135. 0)	(1, 207. 2)	109	(10[5])
動物の排せつ物の燃焼灰	5. 3	15. 9	33	2[1]
(家きんふん)	(5. 3)	(15. 9)	(33)	(2[1])
堆肥	72, 504. 1	88, 269. 9	82	357[156]
(樹皮堆肥)	(0. 0)	(0. 0)	(－)	(3[0])
(牛ふん堆肥)	(24, 338. 0)	(32, 914. 2)	(74)	(102[50])
(豚ふん堆肥)	(9, 395. 0)	(6, 827. 0)	(138)	(40[16])
(家きんふん堆肥)	(12, 192. 3)	(17, 893. 3)	(68)	(34[18])
(生ごみ堆肥)	(2, 426. 9)	(2, 456)	(99)	(38[13])
(その他の堆肥)	(24, 151. 9)	(28, 179)	(86)	(140[59])
発泡消火剤製造かす	0	0	－	0[0]
貝化石粉末	0	0	－	1[0]
カルシウム肥料	1. 7	3. 4	50	7[2]
粗砕石灰石	0	0	－	1[0]
混合特殊肥料	30. 1	6. 8	443	6[2]
計	73, 172. 0	90, 109. 6	81. 2	400[174]

- 注) 1 特殊肥料の生産量には、飼料用・工業用等のその他の区分のものは含めていない。
2 特殊肥料の堆肥の中の区分は、それぞれ全体の 50%を占める原料により便宜的に区分けした。
3 生産量は特殊肥料の種類ごとに四捨五入しているので、種類ごとの総和や対前年比の値が、見た目上、合わないことがある。

(4) 畜政推進事業

畜産安全課の依頼により、特殊肥料の生産届出を促進する目的で、各家畜保健衛生所より推薦された農家の堆肥成分を分析し、結果を報告した。令和7年度は10件の分析を行った（表3）。

表3 令和7年度堆肥分析結果

農家	畜種等	分析項目	窒素全量	リン酸全量	加里全量	銅全量	亜鉛全量	石灰全量	炭素窒素比	電気伝導度	水分含有量
		区分	(%)	(%)	(%)	(mg/kg)	(mg/kg)	(%)		(dS/m)	(%)
A	乳用牛	現物当たり	1.1	1.7	1.2	16.5	111.1	2.2	9	10.3	70.2
		乾物当たり	3.6	5.8	4.2	55.2	372.4	7.2		—	—
B	豚	現物当たり	2.0	5.4	1.0	85.4	440.7	4.7	13	4.7	28.6
		乾物当たり	2.8	7.5	1.3	119.6	617.3	6.7		—	—
C	採卵鶏	現物当たり	1.7	6.1	3.1	44.3	388.3	19.6	10	8.2	22.3
		乾物当たり	2.2	7.8	4.0	57.0	499.7	25.3		—	—
D	豚	現物当たり	0.5	1.3	0.5	28.7	173.3	1.6	24	2.5	69.7
		乾物当たり	1.8	4.4	1.6	94.5	571.5	5.2		—	—
E	採卵鶏	現物当たり	2.2	5.6	3.7	33.7	401.6	18.7	9	8.7	12.3
		乾物当たり	2.5	6.4	4.2	38.5	457.8	21.4		—	—
F	採卵鶏	現物当たり	1.3	4.7	2.4	25.9	263.0	8.0	14	8.0	45.2
		乾物当たり	2.3	8.6	4.4	47.4	480.2	14.5		—	—
G	乳用牛	現物当たり	1.7	0.9	1.5	8.5	105.5	1.7	16	3.3	21.9
		乾物当たり	1.4	0.7	1.2	6.6	82.4	1.3		—	—
H	乳用牛	現物当たり	2.5	2.2	4.7	37.8	334.8	5.5	10	12.8	16.9
		乾物当たり	3.0	2.6	5.6	45.5	403.1	6.6		—	—
I	豚	現物当たり	1.6	2.6	1.9	131.7	943.9	3.4	17	5.6	37.5
		乾物当たり	2.6	4.2	3.1	210.7	1510.4	5.4		—	—
J	採卵鶏	現物当たり	2.2	8.9	5.4	61.6	563.1	17.3	12	8.9	10.0
		乾物当たり	2.4	9.9	6.1	68.5	625.9	19.2		—	—